

## 平成29年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	ICT を活用した小中連携プロジェクト
事業実施代表者名	学校長 北 村 博 幸
実施附属学校名	北海道教育大学附属函館小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000 字程度で記述)	<p>本事業は、小中連携によるアクティブ・ラーニング研究推進のための授業における ICT 活用の実践、検証を図るものである。</p> <p>現在、函館地区小学校、中学校両校は、主体的・対話的で深い学び・情報活用能力の視点から実践を進めている。その上で、ICT 機器の活用はとても重要な事項の一つである。</p> <p>中学校においては生徒一人一人に ICT 機器が配付され、活用が図られている。小学校においては、ICT 機器の台数に限りがあるとともに、破損も増えてきている状況である。</p> <p>そこで、小中連携の一つの窓口として、小学校段階でのより多くの ICT 機器活用の機会を設けることを目的と考えた。</p> <p>小中連携において主体的・対話的で深い学び・情報活用能力の視点から授業実践を図ることは、社会情勢を鑑みても、とても重要な事項である。また、授業における ICT 機器の活用も同様である。</p> <p>そこで、小学校においては、児童が無理なく中学校への接続を図ることができるよう、より充実した ICT 機器を活用する機会を設けたいと考えた。また、この取組を進めていくことで、児童に 21 世紀型学力を育むための一つの窓口としたいと考える。</p> <p>具体的な取組事業内容としては次の 2 点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT 機器活用を図る授業構築、実践、検証</li> <li>○ 作成物、資料等の情報共有を図るための ICT 機器の活用</li> </ul> <p>以上の内容を推進するとともに、平成30年2月16日実施予定の函館地区授業力向上セミナーにて実践を広く公開し、参観者からの意見を得心することも、本事業検証のひとつとする。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500 字程度で記述)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT 機器を活用した授業公開及び事後討議を図ることにより、児童・生徒に 21 世紀型学力を育むための一つの窓口にすることができた。</li> <li>○ アプリ活用により、資料、指導案等の共有をペーパーレスにて行うとともに、必要なときに必要な者がすぐに資料等を閲覧できるため、授業状況に応じた活用、検証を随時行うことができた。</li> <li>○ ICT 機器活用及び情報モラル教育を取り入れた授業カリキュラム作成を行うことで、全職員が共通の考えの基、実践を図る</li> </ul>

	<p>ことができた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「学校現場における ICT 活用の広がりや、今後、より加速していく」と考えたとき、今以上の「情報モラル教育」を充実させる必要がある。</li> <li>● ICT 活用により児童・生徒に 21 世紀型学力を育むためには、ハード及びソフトを常に「更新する」ことが大切である。そのための予算付け要求は続けていきたい。</li> </ul>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述)</p>	<p>☆ 情報モラル教育の充実を図るために、教職員においては定期的な研修及び、児童・生徒の使用状況の交流等の場を設けることが肝要と考える。</p> <p>また、PTA とも連携を図り、保護者への研修や児童・生徒とともに研修の実施なども推し進めたい。(本年度は小学 6 年生実施)</p> <p>☆ ICT 機器のハード及びソフトの更新を図るために、予算要求を続けるとともに、教育後援会費の活用も視野に入れていきたい。</p>
<p>事業の公表状況 (事業を HP で公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>函館地区授業力向上セミナー要項 HP 公開 平成 29 年 12 月 20 日</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。